

小丸山古墳出土の鉄刀・鉄鏃

諏訪市博物館

保存処理完了で公開



諏訪市博物館（同市中洲）は、「小丸山古墳出土品―令和5年度保存処理完了公開展―」を館内2階すわ大昔ミニギャラリーで開いている。同市豊田有賀の小丸山古墳から出土し、2023（令和5）年度にさび除去や腐食防止などの保存処理を施した鉄刀7点と鉄鏃（矢尻）1点が並ぶ。28日まで。

（山本雄太）

小丸山古墳は、周溝を持つた直径約20メートルの円墳と推定され、主な出土品は鉄刀、鉄鏃、馬具、ガラス小玉など。出土品の内容や大きさから、時代は6世紀末頃の古墳時代後期で、当時諏訪地域を治めていた人物の古墳と考えられている。出土品の一部は1979年に市有形文化財に指定された。

2015年に一部の金属製の出土品をエックス線撮影調査したところ、銀線をはめ込んだ装飾の跡が確認された。管理する市教育委員会では、貴重な出土品を修復し、良好な状態で後世に伝えるため、

保存処理をした小丸山古墳出土品が並ぶ諏訪市博物館のすわ大昔ミニギャラリー

17年から保存処理事業を実施。毎年、処理が終わったものから展示している。

今回の展示品の中で特に目を引く刀身がほぼ残っている鉄刀は、長さ約31センチ。権力者の権威や権力を示す威信財とみられる。このほか、保存処理の効果を分かりやすく伝えるため、未処理の鉄鏃を展示。出土品の再整理事業について紹介するパネルなども並べた。

同博物館学芸員は「展示数は少ないが、表面に残るわずかな鞘の痕跡などを間近で見たい。また、再生整理事業についても知ってもらえたら」と来館を呼び掛けている。

入館料は一般310円、小学生150円。午前9時

午後5時。月曜休館。問い合わせは同博物館（電話0266・52・7080）へ。